

# 障害児におけるアセスメントのポイント

(児童発達支援 放課後等デイサービス障害児入所支援)

# 主な話題内容

- ① 児童発達支援センターすぴかの紹介  
★未就学の子どもたちの様子  
1日の過ごし方
- ② 児童期におけるアセスメントのポイント
- ③ 実際の事例を通じた紹介  
年長児2名の実際

# ①児童発達支援センターすぴかの紹介

# 宮崎市総合発達支援センター おおぞら



## 診療部

診断・相談・個別訓練

## 地域生活支援部

福祉サービスの調整・相談  
保育所等への訪問

## 通所部

児童発達支援センターすぴか  
生活介護事業所「宙」

# すぴかの子どもたち

- \* 2歳～6歳 40名
- \* 職員23名
- \* 毎日通園
- \* 単独通園（バス送迎）
- \* 5グループ  
発達段階に応じて編成
- \* 集団保育を行う



# すぴかの子どもたち

- \* 発達障がい
- \* 自閉スペクトラム症
- \* 知的障がい
- \* 肢体不自由
- \* 重症心身障がい
- \* 視覚障がい
- \* 聴覚障がい
- \* 内部障がい
- \* 診断がついていない子ども等



# 療育方針

乳幼児期に育んでおきたい

「体づくりや基本的な生活習慣、生きる力、あそびを見つけ楽しみを見出す力、人と関わる力をつける」

ゆったりした日課

分かりやすい  
環境設定やあそび



小さな集団

大人との密な関係

## 一日の流れ

9 : 0 0	送迎バス到着 排泄 自由時間
1 0 : 2 0	朝の会
1 0 : 3 0 ～	設定保育
1 1 : 3 0	
1 2 : 0 0	給食 自由あそび 園庭・遊戯室
1 5 : 0 0	帰りの会・降園



# 土台は楽しい「あそび」

好きなこと、安定してできること  
少し手伝えばできそうなことを  
繰り返し

結果的に「できた」につながる

# 行動には理由がある

- ・ 観察し、理由を探る  
～つまらない／わからない／感覚／その他
- ・ 自発的に働きかけていることを探る

# 例えば…濡れたり汚れたりすることを嫌がる

## 背景は？

- ・ 触ったことがない
- ・ 感触が嫌だ
- ・ 匂いが苦手

など

**間接的に触れる**

**好きなものをきっかけにする**

# 例えば…集団に入らない

## 背景は？

- ・ ざわざわしているから嫌だ
- ・ 過去にいやな経験をした
- ・ 何をしているか分からない など

一人（少人数）のできる時間をつくる

少し離れた場所に、用意しておく

# 例えば…すぐ手が出る

## 背景は？

- ・相手の反応を確認したい
- ・力加減が分からない
- ・イメージが持てない不安、怖さ  
（何をするのか分からない）  
（何を言われているのか分からない）



ことばで伝えるにはまだ  
未熟な場合も多い

- **気持ちの言語化**

危ない行動は止めた上で、代弁と共感の  
積み重ね

- **楽しい共通体験を重ねる**

- **「優しく」「力いっぱい」をあそびで経験する**

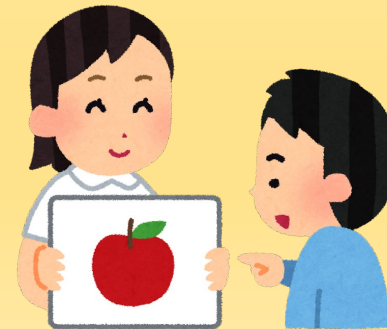
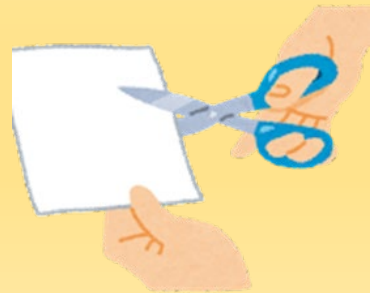


日課の見直しが必要なこともある

テクニックではなく、子どもの姿から紐解く

# 「しなくても良い」を保障する

- 「できた」－「できなかった」か
- **その活動を求める発達段階かどうか**  
～能力を獲得できる時期がある



# 子どもの良き理解者に

子どもにとって意味のある存在になる

先生といると何をするか分かる  
先生を見ていると楽しいことが出てくる  
先生は、困ったら助けてくれる



人から学ぶ土台づくり

「発達障がいのキホンの話～どの子ども園の中で楽しくすごすために」  
伊東美和氏講演会資料より

できるところまで。無理はさせず、一緒に楽しむ。

# 好きなこと 分かることを支援の糸口に

安定してできること  
安心できる居場所  
信頼できる人 初めて一歩踏み出せる

適切な集団で

やってみようと思える環境で

「わかった」「たのしい」を繰り返す